

アズマキシダグモの婚姻贈呈

板 倉 泰 弘

キシダグモ属 *Pisaura* の雄による婚姻贈呈 (bridal gift) については, *Pisaura mirabilis* によって観察がなされている (Bristowe 1958; Leighton 1969 等). 今回, 筆者はアズマキシダグモ *Pisaura lama* の飼育の途中, 彼らの求愛と交接を幾例か観察したので報告する.

観察方法

観察はコーヒーの空ビンに足場として割ばしを入れ, 雌雄各1頭を放して5月末に行なった. クモは飼育中のもので, 1986年5月中旬から下旬にかけて成体になった7組14頭を用いた. gift の為のエサにはイエバエ *Musca domestica* を1回の観察につき1頭だけ与えた.

観察結果

求愛と交接

雌の prey (獲物) と雄の gift (贈り物) の有無によって A, B, C の3つの場合に分けてみた.

A: 雌が prey を持たず雄が gift を持っている場合

雌雄のクモをビンに入れ, 雌にイエバエを与えると雌はハエを糸で包む. 自分のための prey である場合には糸で包むことはない. やがて, 包んだ gift を牙で保持した雌は雌の方向を目指して一直線に進むが, 第1脚の先端が相手の体の一部に触れるところまで来ると一時停止する. 一度, 第1脚を相手から離して改めて雌の脚 (どの脚でもかまわない) に第1脚をのばす. 雌はツツ, ツツというように脚を規則正しく振動させる.

雌は雌が最初に触れた際, 驚いたように身構えるが雌が再び体に脚に触れさせて2~3回振動を与えられると, 雌はむしろ自から進んで雌に接近して雌が身を乗り出すようにして差し出す gift に口器をつけて食べ始める. gift は雌が自分で受け取るが, 雄と共にくわえ合っている (雌が gift を食べることはない. gift の直径が3mm以下になると雌は gift を放す).

続いて雌は交接のしやすい位置に移動する. この位置は雌に対して頭の方を逆にして腹側に向きあうか, あるいは垂直に頭を雌の腹に向けるかである. このとき, 雌は雌の1~5本位の脚に触れたまま接点を保って移動し, 脚の振動も続ける. そうして間もなく交接に入る. 雌は gift を食べ続けて他の事には関心はないようで, 雌はそのまま触肢を外雌器に当てがえばよい. 2~3度1本の触肢で外雌器に触れて位置を確認すると, 挿入を開始する. このとき触肢にある血のうが膨張・収縮を始める. ルーペで観るとやや透明なものが膨らんでいるのがよくわかる. 挿入は, 触肢の背面を外雌器に押しつけるような具合で行なう. 触肢は数10秒~数分で左右が交代する. 交接は gift がある限り行なわれ4~5時間かかることもある (ただし, 雌が gift から一時的に離れることもある). 雌は gift がなくなると同時に立ち去るが, 交接している間ずっと脚で振動を与えつづける.

KISHIDA I A No. 55. 1987. May

B ; 雄が自分の prey を持ち雌も gift を保持している場合

すべて A の場合と同じだが、雌の行動が興味深い。雄が脚に触れて振動させるや否や、それまで食べていた prey を下に落として雌の持つて来た gift に口器をつける。交接が終了し雄が去った後、再び落とした prey を捨い食べ始めるのである。5 時間も交接をした後ですら、前の prey を忘れることはなかった。

C ; 雄が gift を持っていない場合

雌が自分の prey を持つていたにせよ、また雌の体に偶然ぶつかったとしても雌は何ら行動を起こさない。雌雄ともに相手を捕えて食べたり gift にしてしまうこともある。

一例だけ交接に成功した例がある。なぜかは不明だが、雄は A の場合と同様に雌に接近して振動を与えた。雌は gift がないのにもかかわらず大人しくなり交接に応じた。しかし、交接が 19 分間ほど続いた後で雄が振動を中止して立ち去ろうとした瞬間、雌に捕食されてしまった。

同一個体における交接の回数

雄は最終脱皮後 2~3 週間の間雌の存否にかかわらず gift を作りつづけ、雌は生命を終えるまで、雌は産卵するまで交接の機会があれば何度でも行なう。一度交接をしたクモを 1 週間後に再び合わせても交接が行なわれ、3 組のクモで試したが同様に交接がなされた。

考 察

アズマキンググモの求愛・交接は、脚の振動と gift によって雄が雌の攻撃を抑制して行なわれる。gift で振動による効果を補強して、交接前後に雌が捕食されぬことを保証しているように見える。このことは、gift を持たぬ雌が雌を発見しても（ぶつかっても）求愛行動を起こさないことや、一例だが gift を持たぬ雌が交接後、振動を中止した瞬間雌に捕えられてしまったことから推しはかれる。交接そのものは振動だけで可能だが、雄が雌に接近したり離れたる際に雌の攻撃をさけるために gift が必要なのであろう。また、gift を持たぬ雌が雌を認めても求愛に移らないことや雌を捕えて gift にしてしまうこともあることから、gift を持つことが雌に行動を起こさせる引き金になっているのかもしれない。

同一個体における交接の回数については、コーヒービン内という限られた空間では出会う機会も増すが、いくら機会が増えるとはいえ出会えば交接を行なうことから野外でも、一度交接したクモが相手と出会えば交接をするであろうと考えられる。

謝 辞

今回の報告にあたり懇切丁寧にご指導下さった池田博明氏に誌上を借りて御礼申し上げる。

参考文献

* Bristowe, W. S., 1958. The world of Spiders. Collins.

Leighton, R., 1969. A note on the courting pattern of *Pisaura mirabilis*.
Bull. Br. Arachnol. Soc. 1:25

* は直接参照していない。ページ数不明。

アシプトヒメグモの生態

高橋 祐子*

I. アシプトヒメグモの網について

(1) 観察日 1986年6月9日・快晴だが風が強い。

(2) 観察方法

①網にラッカースプレー(黄色)をかける。

②網をスライド用のマウントでとってきて、顕微鏡でみる。

(3) 観察結果とまとめ

①網の構造：不規則部分とシート部分がある。

3つの網を調べた。スプレーをしていない網ではそれほど目立たなかったが、下にシートがあった。シートの上に、何本も糸が不規則にひかれている。(図1参照)

②網の粘球について

網の外側を一部、採った(図1)。顕微鏡でみると、粘球があった。粘球と粘球の間の長さを3種類にわけてはかってみた。1本の同じ糸でも、等間隔に粘球があるわけではなかった。(図2)

これらの観察は、野外の網でおこなったので、粘球などはとれてしまったものもあるだろう。網が小さいため、マウントでとる時に私がこわしてしまったところもあったかもしれない。

II. アシプトヒメグモの交接

(1) 観察日 1986年6月20日・晴れ、少し風あり

(2) 観察方法 16時45分、前日つかまえた雄を城内高校中庭に造網している雌の網にはなす。

(3) 結果

16:45 雄は網に、奥のほう(図3・B)から入る。雌は体を振動させた後、雌の体に触れる。入ってきた雄に雌が近づいて、むかい合ってお互いに体をふるわせた。その後、雄が第1脚で、雌の第1脚にさわった。

16:46 交接(右の触肢を挿入)

16:55 雄は触肢をぬいて、触肢同志をすり合わせたり、口で触肢をcleaningする。

16:56 1度はなれるが、すぐに交接を始める。(左の触肢を挿入)

17:04 雄は右触肢で顔をふくような動作をしてから、左触肢をぬいて離れる。

雄は同じ雌に2回目の求愛をし、交接をする。

17:06 雌から5~10mmほど離れた雄は触肢を振動させる。雄は第1脚で、雌の第1脚をおさえ(持ちあげるように)交接のポーズをとる。(図4)

17:08 雄が少し近づいて、雌の腹部をさわったりする。

17:09 雄が少し離れて体を振動させる。触肢をふる。

* 小田原城内高校生物研究部

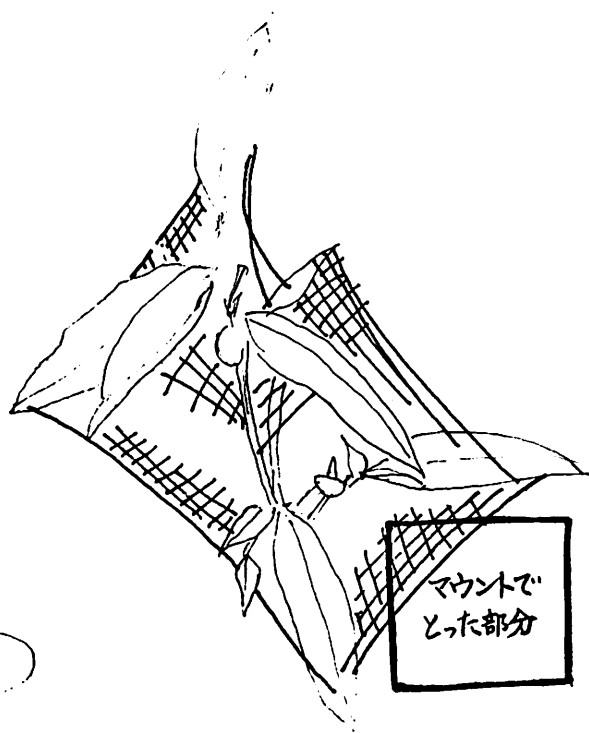
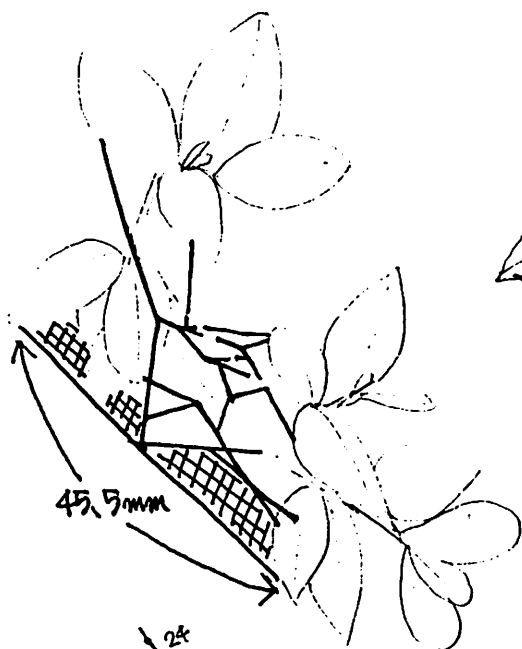


図1 網の構造

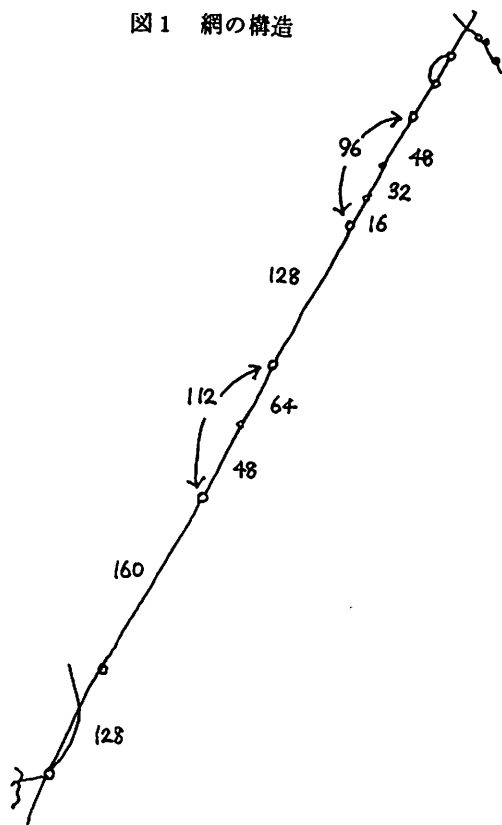
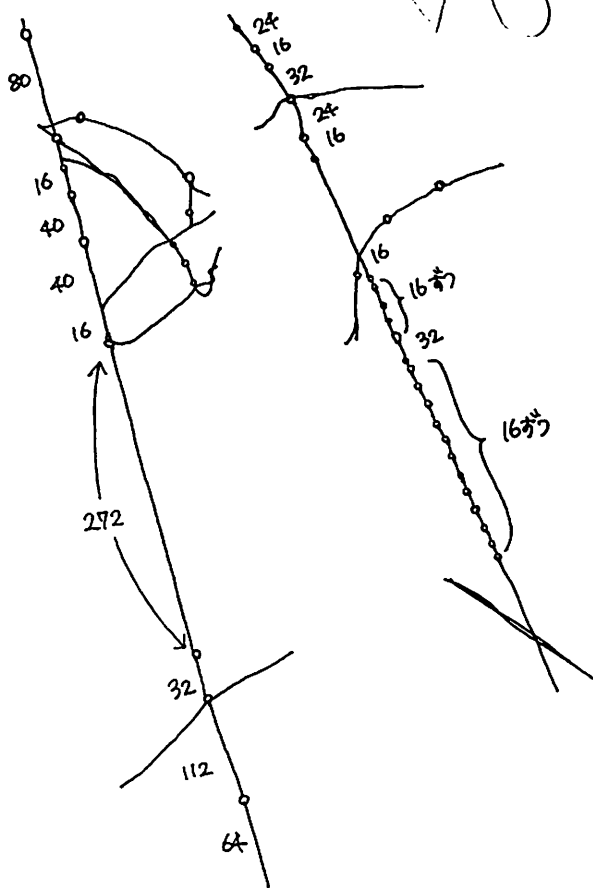


図2 網の粘球(単位は μm)

17:10 雄がさかんに触肢をふっていると、雌も触肢をふり始める。再び雄が近づいて交接を始める。(右の触肢を挿入)

17:13 触肢をぬいて離れ、触肢をふる。雌が雄の脚をさわる。

17:14 雄が雌に近づいて交接。(左の触肢を挿入)

17:17 雄が触肢をぬいてcleaningする。雄の第1脚は雌の第1脚の膝節のあたりをおさえて持ち上げている。

17:19 雄は離れて脚をcleaning。離れた後、雌が雄を追跡した。雌が雌に脚をのばしてつつくが、雄は背をむけてしまう。雌は追いかける動作をし、触肢をふるわせる。

17:20 雄は向き直って雌に近づくが、すぐに雄が背をむける。雌から雌に近づいてゆき背後からつつく。雄は網から出ようとするが、もどってきて♀の脚をさわる。また出るふりをしてもどってくるが、雌が追い出そうとする。

17:27 雄は脚をみがいて、網の側面(図3・E)から出ようとするが出られない。

17:32 雌が追い出そうとして後ろからけしかける。

17:43 雄がとうとう出てこれないでいたので、一緒に観察していた稲葉茂代先生が少しついたりして、網から出してやる。

交接の時、雄の第1脚は雌の第1脚をおさえ、第2脚も同様に雌の第2脚にあわせていた。

Ⅲ. アシプトヒメグモの卵のうと子グモ

(1) 出のう数について

6月28日に、城内高校内の、雌が卵のうを持っていた。7月11日に、卵のうから子グモがかえっていた。卵のうは、形はもとのままで小さな穴が2つあいていた。この時は子グモの数は数えなかった。

8月1日に、箱根分校の近くで卵のうをもった雌をつかまえた。8月8日に、子グモが31頭生まれた。卵のうは、もとの形のままで残っていた。雌にはその後もエサ(ショウジョウバエ)をあたえ続けた。すると、8月23日に、卵のうを持っていた。9月3日に、卵のうから子グモが出てきていたが、子グモの数は11頭だった。

8月27日に、稲葉先生から初島で採取した、卵のうをもっている雌をもらった。9月3日に、卵のうから子グモが出てきていて、数は30頭だった。

(2) 卵のうの形態

卵のうは、直径3mmくらいの球体で、これには1カ所、生クリームをしばらく出した時に最後にできるツノのようなところがある。そのツノのようなもののちょうど反対側に、放射状のしわがある。色はまっ白で母グモの体より少し大きい。

(3) 子グモ(2令幼体)の形態

子グモは、白っぽい黄色をしていて、アシプトヒメグモ特有の模様はない。

(4) 卵のうを保持している母グモの捕食

6月28日に採取した雌では、卵のうをもっている時にエサをいれても、食べることを確認で

きなかったが、8月1日に採取した雌は、卵のうをはなしてエサをとらえた。

(5) 分散について

子グモをサツキの鉢にはなして、生物室の中で観察していたら、子グモは糸でたれ下って上下に動き、そのうちに飛び始めた。飛んでいく時は、子グモがもといいた木から子グモの間に手をやっても糸がある様子はなく、子グモの進行方向には糸があった。子グモは、糸を流してどこかにつけてから、それを伝って飛んでいくようである。

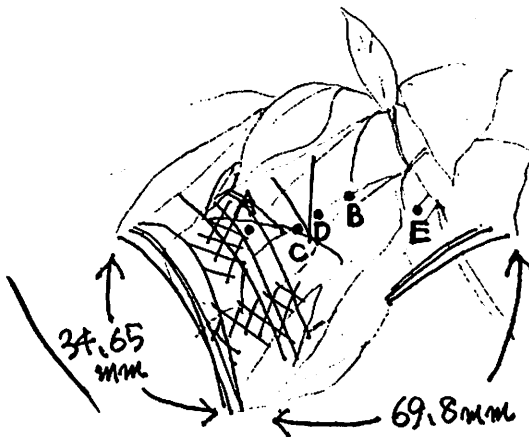


図3 交接の観察

- A. ♀がいた場所 B. ♂が網に侵入した場所
- C. 1回目の交接の場所
- D. 2.3.4回目の交接場所
- E. 交接をすませた♂が網から出られずとどまっていた場所



図4 求愛の姿勢

クモ 3 種の新産地の報告

—— シロタマヒメグモ, ニワオニグモ, アカスジコマチグモ ——

谷川明男^{*}・堀 由起子^{**}

表題の 3 種のクモについて、従来採集報告の無かった地域にて採集することができたので、ここに報告する。

なお、本報告をまとめるにあたって、ニワオニグモの同定および 3 種の採集記録について新海栄一氏の御教示をいただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

① *Enoplognatha margarita* Yaginuma, 1964 シロタマヒメグモ

採 集 地	北海道厚岸郡厚岸町
採集日・個体数	14-Ⅷ-1986 2♀
採 集 者	谷川明男

本種は最近まで本州高地でのみその分布が知られていた（新海・高野 1984，八木沼 1986）が、松田（1985）によって大雪山国立公園内からの採集が報告され、北海道にも分布することが明らかになった。

今回、道東の低地からも採集されたことから、本種は道内においても広く分布している可能性があると思われるが、多くの北海道の採集報告には記録されていないので、道内では特異的な分布をしているのかもしれない。

② *Araneus diadematus* Clerk, 1758 ニワオニグモ

採 集 地	山梨県中巨摩郡芦安村
採集日・個体数	15 - Ⅷ - 1984 1♂, 7♀
	31 - Ⅷ - 1986 1♀, 2y
	15 - Ⅸ - 1986 1♂, 1♀
採 集 者	谷川明男

本種は 1977 年に北海道摩周湖及び北アルプス常念岳から採集され、日本での分布が明らかになったものである（新海・八木沼 1977）。その後北海道からは道北に多数生息する（熊田 1979）などいくつかの報告があるが（松田 1985，保田 1985），本州では常念岳以外の採集記録は無いままであった。

* 神奈川県立野庭高校 ** 同高生物部

今回の採集地は南アルプス北岳の山麓，大樺沢の河原（広河原付近）で，標高は1600 m前後である。この地では採集した個体以外にも多数のものの生息を確認しているので，単なる偶産ではなく，完全に定着しているものと思われる。今後調査がすすめば，本州中央高地において他にも生息地が明らかにされるのではなかろうか。

③ *Chiracanthium erraticum* (Walckenaer, 1802) アカスジコマチグモ

採 集 地	長野県小県郡真田町
採集日・個体数	22 - VII - 1984 1 ♀
採 集 者	堀 由起子

本種は北海道にのみ分布するとされているが（新海・高野 1984 八木沼 1986 ），新海栄一氏の私信によれば石川県において採集例がある。

今回の採集地は菅平高原，根子岳の山腹で，採集個体はわずかに1頭のため，偶産の可能性もある。石川の採集例や今回の例が偶産によるものか，本州にも定着しているかについては今後の調査結果を待ちたい。

引 用 文 献

熊田憲一，1979．北海道北部のクモ．KISHIDAIA, 44:23 - 28.

松田まゆみ，1985．北海道中央高地（大雪山国立公園）の真正蜘蛛類．上士幌町ひがし大雪博物館研究報告，7:1 - 33.

新海栄一・八木沼健夫，1977．分布資料．ATYPUS, 70:43.

新海栄一・高野伸二，1984．フィールド図鑑 クモ．東海大学出版会，東京．

八木沼健夫，1986．原色日本クモ類図鑑．保育社，大阪．

保田信紀，1985．上川町（大雪山・石狩川源流地域）の真正蜘蛛類ノートⅦ．上川町の自然，生物目録集：93 - 104.

談話会活動報告に使用したクモ性別および齢期略号について

編集局 熊 田 憲 一

前号の活動報告をご覧になってお気づきの方もおられたと思いますが、採集観察会報告の目録部“各季で記録されたクモ”の状態表記法を、少し変えてみました。

談話会が年間を通して同一ヶ所を対象に、春夏秋冬の採集会を行なうようになったのは1977年の八王子城跡観察会からです。その後八王子城跡の活動報告(1978:新海・田中・栗原・高橋)を出すにあたり、リスト部作成の依頼を受けました。そこで年間を通しての報告であることを考慮し、リストでは学名から命名者を省略し、4回の採集チェック部を入れるといった方法をとりました。チェック部に、Ad(成体)、subあるいはs(亜成体)、y(幼体)、o(幼生・亜成体・成体の全部が見られたもの)、という表記を使用したことは記憶に新しいことと思います。しかし報告の回を重ねるにしたがい、MAd(雄成体)、FsA(雌亜成体)等と確認された個体の状態(情報)がより詳しく伝えられるようになりました。それにしがつて一種のクモ、一回の会での情報が増え、今までのような一行一種という報告方法がむずかしくなってきたのが現状です。

そこで前回より、M(雄成体)、F(雌成体)、m(雄幼体)、f(雌幼体)、y(性別不明幼体)、e(卵のう)、-(確認なし)、補助的にL(確認記録のみ)と一文字で表記する方法をとってみました。この方法ですと多くの情報が得られた場合でもMFmfyeと連記することが可能です。一文字記号の内容が理解していただければ、参加できなかった方にもより詳しい情報として報告書が利用していただけると考えます。

課題としては今まで亜成体としてきた齢期の扱いです。亜成体とは次の脱皮で成体になる個体ということなのですが、現状では“これが絶対亜成体”という確証報告が少なすぎることです。小野展嗣氏(1975)によれば、亜成体という一つの齢期(小野氏は亜成体という語は不適当として用いず、終齢幼生が妥当と述べている)の中でも亜成体(終齢幼生)になったばかりと、もうすぐ成体へ脱皮する時では生殖器の透けて見える構造に大きな差があることを、ヤミイロカニグモ雄の飼育によって述べています。

今まではクモに接してきた経験で“亜成体である”“あろう”と区別してきましたが、今回は亜成体表記は保留し(前号№54で池田氏はm♂亜成体・f♀亜成体としている)、雄または雌と確実にわかる幼体と、どちらかわからない(性徴が出ていない)幼体の2つに分けた。この点についてはクモの生活史がわかるにしたがつてより細かく区分されることであろうが、現段階ではこのようにしたい。今後支障がなければ活動報告にはこの一文字表記を使用してゆきたいと考えています。

なお、この表記法に準じた書き直しに快よく応じていただいた前回高麗山報告の池田博明氏と、今回内浦山報告の浅間茂氏にお礼申し上げます。

参考文献

小野展嗣, 1975. クモの生活史研究の問題点及び齢期記録の一方法. KISHIDAIA 39:49-54

KISHIDAIA № 55. 1987. May

東京蜘蛛談話会 昭和57年度(1982年度)合宿報告

伊豆半島天城湯ヶ島町市山のクモ

熊田 憲一・加藤 輝代子

昭和57年度(1982年度)の談話会合宿は、7月30日から8月1日にかけて静岡県田川郡天城湯ヶ島町市山で行なわれた。2泊3日の期間中15名の参加があった。

合宿地市山は、伊豆半島の中ほど湯ヶ島温泉郷の北に位置する。標高200m、伊豆の山に囲まれた半島部中央部に位置するだけあって、国道から少し山側に入っただけの所ではあるが、山村の環境を有していた。

合宿所の前には大洞川が流れており、流れに沿って山に続く林道がある。その林道を逆登ると、少し上流の斜面には段々畑になった水田があり、林床にはシイタケのホダ木も見られた。山はよく植林されているが、雑木林も目立つところであった。

〈合宿参加者(敬称略)〉

浅間 茂・阿佐見正起・池田博明・加藤輝代子・熊田憲一・熊田宗幸・熊田理恵・小池牧子・佐々木勝實・佐藤幸子・嶋田順一・高野伸二・高野ツヤ子・高橋 登・堀越雅弘

〈活動記録〉

1日目(7月30日)晴、現地集合後採集観察会。散策コースは宿を起点に大洞川沿いの林道を上流へとった。夜間採集は昼間と同じく大洞川沿いのコースとした。

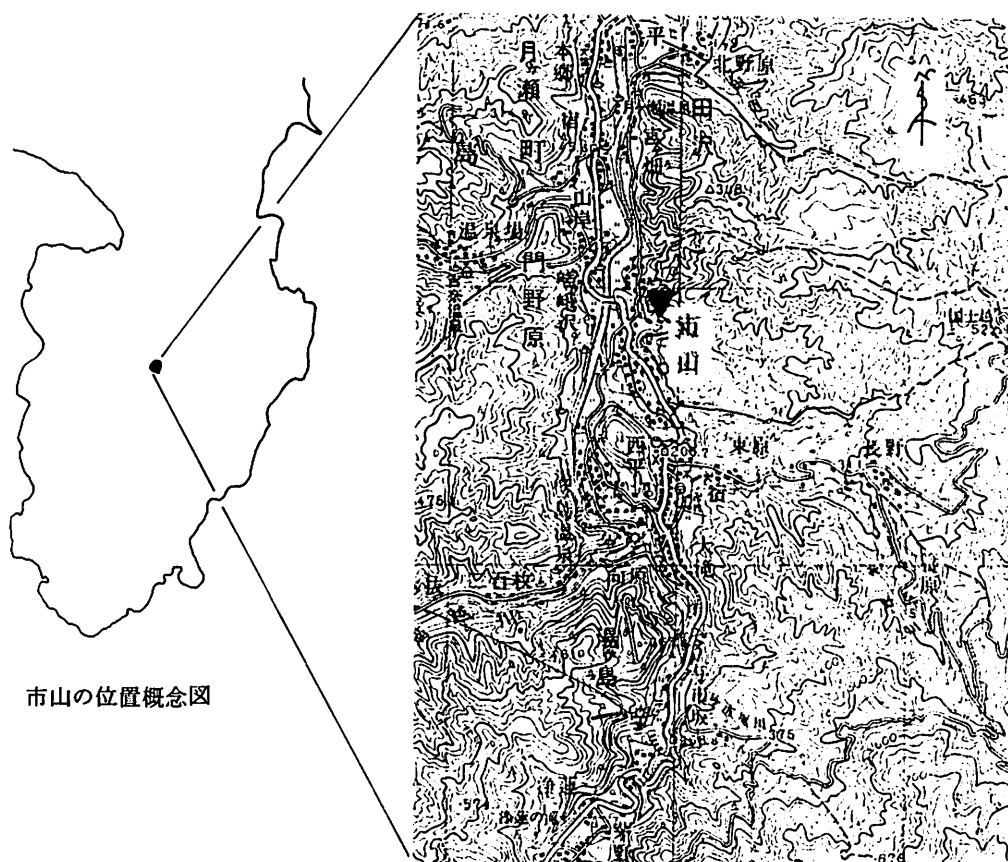
2日目(7月31日)晴。採集観察会を行なう。宿の紹介で鹿野川対岸の林道から合宿所にかけてのコースが対象地となる。合宿地から林道途中までは宿の車で移動した。その後上流に向って林道を終点まで歩き、終点近くの川側の斜面を下って鹿野川の河原に出、橋を渡って湯ヶ島温泉郷を抜けて帰宿した。夜間採集は前日同様大洞川沿いで行なった。

3日目(8月1日)朝から台風の影響で大雨、採集観察会は中止。宿で談話のち解散となった。

台風の近づく中、1日目・2日目と好天に恵まれ、参加者は多くのクモに接することができた。昼間の観察ではサヤヒメグモ・トビジロイソウロウグモ・クロナンキングモ・ハラビロセンショウグモ・コガネグモ・ギンナガゴミグモ・トリノフンダマシ類5種(トリノフンダマシ・オオトリノフンダマシ・クロトリノフンダマシ・アカイトトリノフンダマシ・シロオビトリノフンダマシ)・イボカニグモ等ふだんあまり目につかない種、南に来ないと見られない種が確認できた。また、コガネヒメグモ・ギボシヒメグモ・キヨヒメグモ・ハラビロセンショウグモなどのクモの卵のうやまどいが観察できた。夜間採集ではトリノフンダマシ類4種(トリノフンダマシ・オオトリノフンダマシ・アカイトトリノフンダマシ・シロオビトリノフンダマシ)の網やゲホウグモのレコード板のような目の細かな網・タニマノドヨウグモの巨大な網を見て驚ろいたり喜んだりした。コアシダカグモが宿の室内で、アシダカグモが宿の外壁で観察されるといった機会にも恵まれた。



8月1日 天露庵にて



市山の位置概念図

〈目 録〉

この目録は当日採集観察された種を加藤が記録し、それに熊田が標本（熊田・加藤採集）を同定した結果をまとめたものである。略号説明・M（雄成体），F（雌成体），m（雄幼体），f（雌幼体），y（雌雄不明幼体），e（卵のう），L（確認記録のみ），o（標本確認）

1. Ctenizidae		
1. <i>Ummidia flagaria</i>	キノボリトタテグモ	o f
2. Atypidae		
2. <i>Atypus karschi</i>	ジグモ	L
3. Amaurobiidae		
3. <i>Titanoeca albofasciata</i>	ヤマトガケジグモ	M
4. Dictynidae		
4. <i>Dictyna felis</i>	ネコハグモ	F
5. Uloboridae		
5. <i>Hyptiotes affinis</i>	オウギグモ	y
6. <i>Miagrammopes orientalis</i>	マネキグモ	y
7. <i>Uloborus sinensis</i>	トウキョウウズグモ	Fe
8. <i>U. sybotides</i>	カタハリウズグモ	o M F y
9. <i>U. varians</i>	ウズグモ	Fe
6. Oonopidae		
10. <i>Orchestina sanguinea</i>	アカハネグモ	o F
7. Pholcidae		
11. <i>Pholcus crypticolens</i>	ユウレイグモ	o F
8. Theridiidae		
12. <i>Achaearanea angulithorax</i>	ツリガネヒメグモ	m
13. <i>A. culicivora</i>	ニセンヒメグモ	o F
14. <i>A. japonica</i>	ヒメグモ	o M F
15. <i>A. kompirensis</i>	コンピラヒメグモ	y
16. <i>A. tepidariorum</i>	オオヒメグモ	o M F y
17. <i>Anelosimus crassipes</i>	アシブトヒメグモ	o F
18. <i>Argyrodes bonadea</i>	シロカネイソウロウグモ	o F
19. <i>A. cylindratus</i>	トビジロイソウロウグモ	o M F
20. <i>A. cylindrogaster</i>	オナガグモ	F y
21. <i>A. fissifrons</i>	チリイソウロウグモ	o M F
22. <i>A. fur</i>	フタオイソウロウグモ	F
23. <i>A. saganus</i>	ヤリグモ	F

24. <i>Chryso punctifera</i>	ホシミドリヒメグモ	F
25. <i>C. venusta</i>	コガネヒメグモ	F e
26. <i>Coleosoma blandum</i>	サヤヒメグモ	F
27. <i>Dipoena castrata</i>	ボカシミジングモ	M
28. <i>D. mustelina</i>	カニミジングモ	o M F y
29. <i>D. punctisparsa</i>	シモフリミジングモ	o m y
30. <i>Enoplognatha transversifoveata</i>	カレハヒメグモ	o F
31. <i>Theridion rapulum</i>	ギボシヒメグモ	o M F y e
32. <i>T. sterninotatum</i>	ムナボシヒメグモ	o F y
33. <i>T. subpallens</i>	ハイイロヒメグモ	o F
34. <i>T. sp.</i>	キヨヒメグモ	F e
9. Linyphiidae		
35. <i>Arcuphantes tamaensis</i>	タマヤミサラグモ	o M F
36. <i>Labulla contortipes</i>	アシヨレグモ	F
37. <i>Linyphia fusca</i>	クスミサラグモ	F f
38. <i>L. japonica</i>	ツリサラグモ	y
39. <i>L. longipedella</i>	アシナガサラグモ	o M F m
40. <i>L. nigripectoris</i>	ムネグロサラグモ	o M F
41. <i>L. oidedicata</i>	ヘリジロサラグモ	o F y
42. <i>Erigonidium graminicola</i>	クロナンキングモ	o F
10. Mimetidae		
43. <i>Ero japonica</i>	センショウグモ	o M y
44. <i>Mimetes japonicus</i>	ハラビロセンショウグモ	F y e
11. Anapidae		
45. <i>Conoculus lyugadinus</i>	ヨリメグモ	M F
12. Mysmenidae		
46. <i>Mysmenella jobi</i>	ナンブコツブグモ	L
13. Araneidae		
47. <i>Acusilas coccineus</i>	ハツリグモ	F
48. <i>Araneus ishikawai</i>	イシサワオニグモ	F
49. <i>A. uyemurai</i>	ヤマオニグモ	F
50. <i>A. ventricosus</i>	オニグモ	y
51. <i>A. pseudocentrodus</i>	トガリオニグモ	o M F y
52. <i>A. ejusmodi</i>	ヌサオニグモ	o F
53. <i>A. pentagrammicus</i>	アオオニグモ	F f
54. <i>A. viperifer</i>	カラオニグモ	y

55. <i>A. viridiventris</i>	ハラビロミドリオニグモ	M
56. <i>A. sp.</i>	マメオニグモ	o f y
57. <i>Araniella sp.</i>	ハナオニグモ	o y
58. <i>Neoscona mellottei</i>	ワキグロサツマノミダマン	o F f
59. <i>N. scylloides</i>	サツマノミダマン	F
60. <i>N. scylla</i>	ヤマンロオニグモ	o M F f
61. <i>Yaginomia sia</i>	ズグロオニグモ	o M F
62. <i>Zilla sachalinensis</i>	カラフトオニグモ	o y
63. <i>Argiope amoena</i>	コガネグモ	o F y
64. <i>A. bruennichii</i>	ナガコガネグモ	F
65. <i>A. minuta</i>	コガタコガネグモ	f
66. <i>Cyclosa ginnaga</i>	ギンナガゴミグモ	o F
67. <i>C. octotuberculata</i>	ゴミグモ	o F y e
68. <i>C. sedeculata</i>	ヨツデゴミグモ	y
69. <i>Cyrtarachne bufo</i>	トリノフンダマン	f
70. <i>C. inaequalis</i>	オオトリノフンダマン	M F m
71. <i>C. nagasakiensis</i>	シロオビトリノフンダマン	F
72. <i>C. nigra</i>	クロトリノフンダマン	F
73. <i>C. yunoharuensis</i>	アカイロトリノフンダマン	o F f
74. <i>Meta reticuloides</i>	ヤマジドヨウグモ	F
75. <i>Metleuauge kompirensis</i>	タニマノドヨウグモ	F
76. <i>Nephila clavata</i>	ジョロウグモ	o y
77. <i>Poltys illepidus</i>	ゲホウグモ	y
14. Theridiosomatidae		
78. <i>Ogulnius pullus</i>	ヤマジグモ	F e
79. <i>Theridiosoma epeiroides</i>	カラカラグモ	F
15. Tetragnathidae		
80. <i>Leucauge magnifica</i>	オオシロカネグモ	o F
81. <i>L. subblanda</i>	コシロカネグモ	F
82. <i>L. subgemmea</i>	キララシロカネグモ	o M F f
83. <i>Tetragnatha maxillosa</i>	ヤサガタアシナガグモ	o M f y
84. <i>T. praedonia</i>	アシナガグモ	o M y
85. <i>T. squamata</i>	ウロコアシナガグモ	F
16. Urocteidae		
86. <i>Uroctea compactilis</i>	ヒラタグモ	L

17. Agelenidae		
87. <i>Agelena limbata</i>	クサグモ	M F
88. <i>A. opulenta</i>	コクサグモ	m f
89. <i>Coelotes corasides</i>	ヤマヤチグモ	F
90. <i>C. exitialis</i>	ヤチグモ	Y
18. Pisauridae		
91. <i>Dolomedes pallitarsis</i>	スジプトハシリグモ	f
92. <i>D. sulfureus</i>	イオウイロハシリグモ	M F
19. Lycosidae		
93. <i>Pardosa laura</i>	ハリゲコモリグモ	o F
94. <i>Pirata subpiraticus</i>	キバラコモリグモ	o F
20. Oxyopidae		
95. <i>Oxyopes sertatus</i>	ササグモ	o M F e
21. Thomisidae		
96. <i>Boliscus tuberculatus</i>	イボカニグモ	f
97. <i>Misumenops japonicus</i>	コハナグモ	o F
98. <i>M. tricuspidatus</i>	ハナグモ	M F e
99. <i>Oxytate striatipes</i>	ワカバグモ	F
100. <i>Pistius undulatus</i>	ガザミグモ	o Y
101. <i>Thomisus labefactus</i>	アズチグモ	o M F
102. <i>Tmarus piger</i>	トラフカニグモ	L
103. <i>T. rimosus</i>	セマルトラフカニグモ	o M F
104. <i>Xysticus croceus</i>	ヤミイロカニグモ	F
22. Philodromidae		
105. <i>Philodromus spinitarsis</i>	キハダエビグモ	F
106. <i>P. subaureolus</i>	アサヒエビグモ	M F
107. <i>Tibellus tenellus</i>	ジャコグモ	Y
23. Salticidae		
108. <i>Aelurillus festivus</i>	ヤマジロハエトリ	L
109. <i>Bianor pullus</i>	キレワハエトリ	M F
110. <i>Carrhotus xanthogramma</i>	ネコハエトリ	o F
111. <i>Evarcha albaria</i>	マミジロハエトリ	o F
112. <i>Hasarius doenitzi</i>	デーニツハエトリ	F
113. <i>Icius linea</i>	メガネアサヒハエトリ	o M F
114. <i>Marpissa elongata</i>	ヤハズハエトリ	F
115. <i>M. magister</i>	オスクロハエトリ	F

116. <i>M. roemeri</i>	オオハエトリ	y
117. <i>Myrmarachne innermichelis</i>	ヤサアリグモ	o F
118. <i>M. japonica</i>	アリグモ	o F f
119. <i>Plexippus annulipedis</i>	マダラスジハエトリ	o f
120. <i>Rhene atrata</i>	カラスハエトリ	o M F f
121. <i>Silerella vittata</i>	アオオビハエトリ	L
24. Clubionidae		
122. <i>Chiracanthium japonicum</i>	カバキコマチグモ	F
123. <i>Clubiona vigil</i>	ムナアカフクログモ	o F y
124. <i>Phrurolithus komurai</i>	コムラウラシマグモ	o y
125. <i>P. pennatus</i>	ヤバネウラシマグモ	o F
25. Heteropodidae		
126. <i>Heteropoda forcipata</i>	コアシダカグモ	F
127. <i>H. venatoria</i>	アシダカグモ	f
26. Ctenidae		
128. <i>Anahita fauna</i>	シボグモ	o F

今回の合宿では以上 26 科 128 種を観察採集することができた。

伊豆半島における談話会の合宿は昭和 51 年(1976 年)に次いで 2 回目である。前回は半島南端の石廊崎を中心に行なわれたが、今回は半島中央部での合宿となった。なお前回の合宿でも天城峠近くで採集を行っており、数種の記録もあるが、今回の市山とは標高(天城峠 800m・市山 200m)も環境もだいぶ異なるため、本報告では比較検討はしなかった。

・ Locality Code : 市山〔 C 3856 - 3453 〕及び〔 C 3855 - 3453 〕

・ 合宿所：天城湯ヶ島町市山 328 - 1 天露庵

・ 本報告は堀越雅弘氏の担当であったが、堀越氏の都合により熊田・加藤が代って報告した。

参考文献

新海栄一, 1977. 伊豆半島の真正クモ類(東京蜘蛛談話会観察会報告 1976 年夏). KISHIDAIA 42:44-49.

東京蜘蛛談話会 昭和58年度(1983年度)合宿報告

箱根合宿のクモ

熊田 憲一・加藤 輝代子

昭和58年度(1983年度)の談話会合宿は、7月29日から31日にかけて神奈川県足柄下郡箱根町で行なわれた。2泊3日の期間中19名の参加があった。

合宿拠点は小田原寄りの大平台とし、宮ノ下・塔ノ沢や箱根内輪に足を伸ばした。

今回の主な活動場所は箱根火山の外輪山外側に位置する。山麓近くの塔ノ沢は標高200m、大平台同300m、宮ノ下同400mである。塔ノ沢・宮ノ下は湯本と共に箱根七湯に数えられた古い温泉であり、大平台は宮ノ下からの引き湯で近年温泉宿ができたところである。ここは箱根の中心へ向う国道一号線と箱根登山鉄道の沿線にあり、ともすれば箱根の入口として通り過ぎがちなところでもある。しかしそれが幸してか極端な観光地化はされておらず、自然が充分に残されている。

合宿参加者(敬称略)

浅間 茂・井上房枝・池田博明・梅林 力・梅林 登・梅林順一・小澤實樹・加藤輝代子・
河又和夫・日下部光代・熊田憲一・小池牧子・西城雄介・佐藤幸子・嶋田順一・高橋 登・
蓮沼克巳・松浦祐司・牧 孝匡。(梅林登・順一両氏は梅林力氏の御家族、西城氏は会員外参加)

活動報告

1日目(7月29日)晴。現地集合(11時)後採集観察会。国道一号線を歩いて宮ノ下へ向う。宮ノ下には堂ヶ島溪谷がある。標高400mの宮ノ下から同300mの溪谷まで100mの標高差があり、箱根の千仞の谷とはこれなん、と思わせる。谷底には自家用ロープウェイやケーブルカーを持つ旅館があることでも知られている。ハイキングコースを通って溪谷に下り、白糸ノ滝から上流への道を歩いた。夜間採集は、参加者の車に分乗し箱根内輪にあるお玉ヶ池周辺(標高780m)と箱根神社(同900m)で行なった。

2日目(7月30日)晴。箱根登山鉄道に乗車し、塔ノ沢へ向う。塔ノ沢駅の裏にある薄暗い沢と、駅から阿弥陀寺(標高300m)へ向う参道を歩く。阿弥陀寺からは国道一号線へ下り、湯本で昼食をとった。夜間採集も昼間と同じに塔ノ沢の同コースで行なった。

3日目(7月31日)晴。大平台から浅間山ハイキングコースを午前中いっぱい歩き、昼頃大平台にて解散となった。

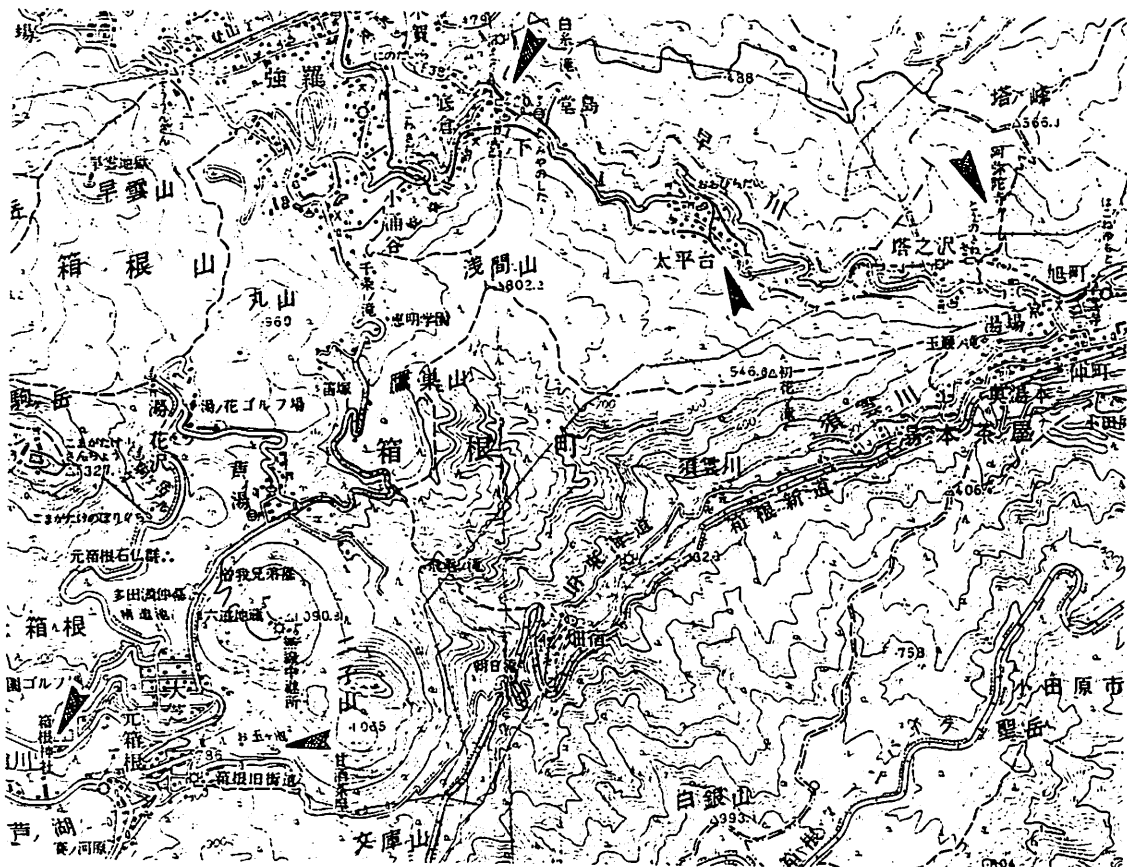
合宿点描

合宿期間中好天に恵まれ、絶好の観察日和りであった。車の移動による観察も行なえたが、限られた日程の中で落ちついて合宿を行ないたいという方向に意見がまとまり、車の使用は夜間採集1回にとどめた。

昼間の観察では夏休み中の箱根というのに、ハイキングコース等でほとんど人に会わなかった。それが幸いしてか、思う存分クモと接することができた。もちろん夜間は誰に会うこともなかった。道のわきをにらみつけ、石があれば返し、木や板が倒れていれば引き起し、クモが居そうな場所



7月30日 阿弥陀寺境内にて



を徘徊する姿は、いつもの観察会ならではの光景である。ウデブトハエトリが採ればよく似たキレハエトリとの区別点の勉強会が始まり、珍しいクモが見つければ呼び合って観察をした。今回はムラクモヒシガタグモの観察をしている池田氏が一緒だったためか、このクモがよく目についた。沢すじではナルコグモ（合宿時クロヤマジグモと呼んでいた）やその卵のう、ヨリメグモの網などの観察もできた。また、阿弥陀寺への道ではキンノウエタテグモの巣穴から伸びているクモタケ、卵のうを持ったキジロオヒキグモ、ヤマシロオニグモを狩るベッコウバチが観察できた。特にキジロオヒキグモは珍しいクモのうえ卵のうまでこの網に作っていたので、採集することなく顔を寄せ合ってじっくり観察しこのクモを堪能した。

目 次

この目録は当日採集観察された種を加藤が記録し、その後池田博明氏・梅林力氏・嶋田順一氏・熊田が採集した種を加えたものである。

略号説明……宮（宮ノ下）、塔（塔ノ沢）、大（大平台）、玉（お玉ヶ池）、箱（箱根神社）、M（雄成体）、F（雌成体）、A（性別未記録成体）、m（雄幼体）、f（雌幼体）、y（性別不明幼体）、e（卵のう）、L（確認記録のみ）、o（標本確認）。通し番号後の^{*}は箱根新記録種。

1. Ctenizidae

- | | | |
|----------------------------|-----------|------------|
| 1. <i>Latouchia typica</i> | キンノウエタテグモ | 塔L（クモタケ観察） |
| 2. <i>Ummidia flagaria</i> | キノボリタテグモ | 宮y塔f |

2. Atypidae

- | | | |
|--------------------------|-----|-------|
| 3. <i>Atypus karschi</i> | ジグモ | 塔y大Ay |
|--------------------------|-----|-------|

3. Dictynidae

- | | | |
|---------------------------------------|-------|-------|
| 4. [*] <i>Lathys humilis</i> | カレハグモ | o宮f塔F |
|---------------------------------------|-------|-------|

4. Uloboridae

- | | | |
|-----------------------------------|-----------|------------|
| 5. <i>Miagrammopes orientalis</i> | マネキグモ | o宮Ay塔Fy |
| 6. <i>Uloborus sinensis</i> | トウキョウウスグモ | o宮F塔MFe |
| 7. <i>U. sybotides</i> | カタハリウスグモ | o塔F大F |
| 8. <i>U. varians</i> | ウスグモ | o宮Fy塔Fy大Ay |

5. Segestriidae

- | | | |
|-------------------------------|----------|-----|
| 9. <i>Segestria nipponica</i> | コマツエンマグモ | o宮f |
|-------------------------------|----------|-----|

6. Pholcidae

- | | | |
|---------------------------------|--------|--------|
| 10. <i>Pholcus crypticolens</i> | ユウレイグモ | o宮F塔Ay |
|---------------------------------|--------|--------|

7. Theridiidae

- | | | |
|---------------------------------------|----------|--------------|
| 11. <i>Achaearanea angulithorax</i> | ツリガネヒメグモ | o宮Fey塔Fy大m箱F |
| 12. [*] <i>A. culicivora</i> | ニセンヒメグモ | o宮MFey塔A大LYF |
| 13. <i>A. japonica</i> | ヒメグモ | o宮Af塔MFfy大F |

14. [※] <i>A. kompirensis</i>	コンピラヒメグモ	○宮 F e
15. <i>A. tepidariorum</i>	オオヒメグモ	○宮 M F e 塔 M F e y 大 M F 箱 M F y
16. <i>Anelosimus crassipes</i>	アシプトヒメグモ	塔 F
17. <i>Argyrodes cylindrogaster</i>	オナガグモ	○宮 A e y 塔 y 大 y
18. [※] <i>A. fissifrons</i>	チリイソウロウグモ	○宮 e 塔 M F
19. <i>A. fur</i>	フタオイソウロウグモ	宮 m f 塔 F e y
20. <i>A. saganus</i>	ヤリグモ	○宮 f 塔 y 大 y 箱 F e
21. [※] <i>Chrysso punctifera</i>	ホシミドリヒメグモ	○宮 y 塔 y 大 y 箱 F e
22. <i>C. venusta</i>	コガネヒメグモ	○宮 M 塔 M F 大 F e y 箱 F e
23. <i>Coleosoma octomaculatum</i>	ヤホシヒメグモ	塔 y
24. [※] <i>Diploea castrata</i>	ボカシミジングモ	○宮 F
25. [※] <i>D. flavomarginata</i>	キベリミジングモ	○塔 M F f
26. <i>D. mustelina</i>	カニミジングモ	○宮 F 塔 M F f 箱 F
27. [※] <i>D. mutilata</i>	コアカクロミジングモ	○宮 F
28. [※] <i>D. punctisparsa</i>	シモフリミジングモ	塔 y
29. <i>Enoplognatha transversifoveata</i>	カレハヒメグモ	宮 F 塔 A e
30. <i>Episinus nubilus</i>	ムラクモヒシガタグモ	○宮 M 塔 M F 大 M m 箱 M
31. [※] <i>E. mirabilis</i>	ハラナガヒシガタグモ	○箱 M
32. <i>Theridion chikunii</i>	バラギヒメグモ	塔 A e
33. [※] <i>T. rapulum</i>	ギボシヒメグモ	○玉 F 箱 M F f
34. <i>T. sterninotatum</i>	ムナボシヒメグモ	○塔 F m f 箱 F
35. [※] <i>T. subadultum</i>	コケヒメグモ	○箱 F
36. [※] <i>T. yunohamense</i>	ユノハマヒメグモ	○宮 A y e 塔 F e 箱 F e

8. Linyphiidae

37. <i>Arcuphantes tamaensis</i>	タマヤミサラグモ	○宮 M F m f 塔 M F y 大 F
38. [※] <i>Bathyphantes tateyamaensis</i>	タテヤマテナガグモ	○宮 F y
39. <i>Labulla contortipes</i>	アシヨレグモ	○宮 F y 塔 f 大 y 箱 y
40. [※] <i>Linyphia japonica</i>	ツリサラグモ	○宮 M F 塔 M
41. <i>L. longipedella</i>	アシナガサラグモ	○宮 F y 塔 M f 大 y 箱 M
42. [※] <i>L. nigripectoris</i>	ムネグロサラグモ	○宮 F f 塔 F 大 M y
43. <i>L. oidedicata</i>	ヘリジロサラグモ	○宮 M F 塔 F 大 y
44. [※] <i>Aprifrontalia mascula</i>	コサラグモ	○塔 F
45. [※] <i>Erigone prominens</i>	ノコギリヒザグモ	○宮 M
46. [※] <i>Strandella quadrimaculata</i>	ヨツボシサラグモ	○宮 y 塔 y 箱 y

9. Mimetidae

47. <i>Ero japonica</i>	センショウグモ	○宮 F e 塔 M F 大 F e
-------------------------	---------	--------------------

10. Anapidae

48. *Conoculus lyugadinus*

ヨリメグモ

○塔 f y

11. Araneidae

49. *Acusilas coccineus*

ハツリグモ

○塔 f

50. *Arachnura logio*

キシロオヒキグモ

塔 F e

51. *Araneus ishishawai*

イシサワオニグモ

○塔 y 玉 f y 箱 A

52. *A. uyemurai*

ヤマオニグモ

○宮 y 塔 y 大 y 玉 y

53. *A. ventricosus*

オニグモ

○宮 f 塔 A f 大 y 玉 A

54. *A. pseudocentrodus*

トガリオニグモ

○塔 M F

55. *A. mitificus*

ビジョオニグモ

塔 y

56. *A. pentagrammicus*

アオオニグモ

宮 y 塔 y

57. *Araniella* sp.

ムツボシオニグモ

○宮 F y

58. *Neoscona fuscocolorata*

ヤミイロオニグモ

○玉 F y 箱 F

59. *N. mellottei*

ワキグロサツマノミダマン

○塔 y

60. *N. scylloides*

サツマノミダマン

○宮 F 塔 y 大 L

61. *N. nautica*

イエオニグモ

大 y

62. *N. scylla*

ヤマシロオニグモ

○宮 F y 塔 M F y 箱 L

63. *Yaginumia sia*

ズグロオニグモ

○宮 F e y 塔 M

64. *Hyposinga sanguinea*

シロスジショウジョウグモ

○塔 y

65. *Zilla sachalinensis*

カラフトオニグモ

○宮 M F 塔 y 大 y

66. *Argiope bruennichii*

ナガコガネグモ

○宮 f y

67. *A. minuta*

コガタコガネグモ

○宮 y 塔 f y

68. *Chorizopes nipponicus*

ヤマトカナエグモ

宮 e 塔 e

69. *Cyclosa octotuberculata*

ゴミグモ

宮 F e 塔 F e

70. *C. sedeculata*

ヨツデゴミグモ

○宮 F e f y 塔 F e y 箱 y

71. *Cyrtarachne yunoharuensis*

アカイロトリノフンダマン

塔 F

72. *Meta reticuloides*

ヤマジドヨウグモ

○宮 f y 塔 f m y 大 m y 玉 m

73. *Metleucauge yunohamensis*

メガネドヨウグモ

○塔 F 玉 y 箱 y

74. *Nephila clavata*

ジョロウグモ

○宮 y 塔 f m y 大 y

12. Theridiosomatidae

75. *Ogulnius pullus*

ヤマジグモ

宮 e 塔 F e

76. *Theridiosoma epeiroides*

カラカラグモ

塔 y

77. *Wendilgaria* sp.

ナルコグモ

○塔 F f e

13. Tetragnathidae

78. *Leucauge magnifica*

オオシロカネグモ

○宮 F 塔 F y 大 A 玉 A y

79. *L. subblanda*

コシロカネグモ

○宮 F 塔 F 玉 A

80. <i>L. subgemmea</i>	キララシロカネグモ	○宮MFy塔MFL
81.* <i>Menosira ornata</i>	キンヨウグモ	○塔f
82.* <i>Tetragnatha maxillosa</i>	ヤサガタアシナガグモ	箱L
83. <i>T. praedonia</i>	アシナガグモ	○塔y玉y箱y
84.* <i>T. squamata</i>	ウロコアシナガグモ	○宮y塔y箱L
85.* <i>T. yessoensis</i>	エゾアシナガグモ	○塔F
14. Urocteidae		
86. <i>Uroctea compactilis</i>	ヒラタグモ	宮y塔Ae
15. Agelenidae		
87. <i>Agelena limbata</i>	クサグモ	○宮F塔Af
88. <i>A. opulenta</i>	コクサグモ	○宮fy塔y大y
89.* <i>Cicurina japonica</i>	コタナグモ	宮y
90. <i>Coelotes corasides</i>	ヤマヤチグモ	○宮mf大mf
91. <i>C. insidiosus</i>	シモフリヤチグモ	○宮y箱m
16. Pisauridae		
92.* <i>Dolomedes pallitarsis</i>	スジプトハシリグモ	宮y
93. <i>D. raptor</i>	アオグロハシリグモ	○塔f
94. <i>D. sulfureus</i>	イオウイロハシリグモ	○宮Ffy塔MFe fy大L
17. Lycosidae		
95. <i>Pardosa laura</i>	ハリゲコモリグモ	○宮Fy
96.* <i>Pirata clercki</i>	クラークコモリグモ	○塔F
97.* <i>P. procurvus</i>	チビコモリグモ	○大F
18. Thomisidae		
98.* <i>Bassaniana decorata</i>	キハダカニグモ	宮Ay
99.* <i>Lysiteles coronatus</i>	アマギエビスグモ	○宮Fy
100. <i>Misumenops japonicus</i>	コハナグモ	○宮Fy大Fe y
101. <i>Oxytate striatipes</i>	ワカバグモ	○宮ftay大y玉y
102. <i>Pistius undulatus</i>	ガザミグモ	大y
103. <i>Tmarus piger</i>	トラフカニグモ	○塔y
104.* <i>T. rimosus</i>	セマルトラフカニグモ	○宮MF塔Fe f
105. <i>Xysticus croceus</i>	ヤミイロカニグモ	○宮F塔Mm大L
19. Philodromidae		
106. <i>Philodromus flavidus</i>	キエビグモ	○宮A
107.* <i>P. spinitarsis</i>	キハダエビグモ	○宮y
108.* <i>P. subaureolus</i>	アサヒエビグモ	○宮F
109. <i>Tibellus tenellus</i>	シャコグモ	○宮y塔y

20. Salticidae

110. * <i>Bianor pullus</i>	キレワハエトリ	宮 y 大 y
111. * <i>Carrhotus xanthogramma</i>	ネコハエトリ	宮 A e y
112. <i>Evarcha albaria</i>	マミジロハエトリ	○宮 M F e 塔 M F
113. * <i>Harmochirus brachiatus</i>	ウデブトハエトリ	○宮 f y 塔 F 大 M
114. <i>Hasarius doenitzi</i>	デーニツハエトリ	○宮 A y 塔 m y 大 f 箱 F
115. * <i>Icius difficilis</i>	マガネアサヒハエトリ	宮 M 塔 F
116. * <i>Laufeia aenea</i>	エキスハエトリ	塔 y
117. * <i>Menemerus confusus</i>	シラヒゲハエトリ	○塔 M F 大 L
118. * <i>Myrmarachne innermichelis</i>	ヤサアリグモ	○宮 F y
119. <i>M. japonica</i>	アリグモ	○宮 A e y 塔 F
120. <i>Pellenes ususudi</i>	ウススジハエトリ	○宮 M f 大 A 玉 m
121. * <i>Plexippus paykulli</i>	チャスジハエトリ	塔 F
122. <i>Rhene atrata</i>	カラスハエトリ	○宮 M y 塔 y 大 L
123. * <i>Silerella vittata</i>	アオオビハエトリ	宮 A y
124. * <i>Synagelides agoriformis</i>	アメイロハエトリ	○宮 y 塔 M 大 M F
125. <i>Yaginumanis sexdentatus</i>	ムツハハエトリ	○宮 M y 塔 M f 大 L
126. * Gen. sp.	ジャバラハエトリ	○宮 F

21. Clubionidae

127. <i>Clubiona vigil</i>	ムナアカフクログモ	○塔 F
128. <i>Itatsina praticola</i>	イタチグモ	○宮 f
129. * <i>Phrurolithus komurai</i>	コムラウラシマグモ	○宮 f y 大 L
130. * <i>P. nipponicus</i>	ウラシマグモ	大 m
131. <i>P. pennatus</i>	ヤバネウラシマグモ	○宮 F

22. Anyphaenidae

132. * <i>Anyphaena ayshides</i>	ナガイズツグモ	○塔 F e
133. <i>A. pugil</i>	イズツグモ	○塔 f y

23. Heteropodidae

134. <i>Heteropoda forcipata</i>	コアシダカグモ	○宮 F f y 塔 f
135. * <i>H. venatoria</i>	アシダカグモ	大 y

24. Ctenidae

136. <i>Anahita fauna</i>	シボグモ	○塔 y 大 y
---------------------------	------	----------

今回の合宿では以上 24 科 136 種を観察採集することにより確認ができた。なお、各活動場所の確認種は塔ノ沢 97 種、大平台 46 種、宮ノ下 91 種、お玉ヶ池 13 種、箱根神社 24 種であった。

ま と め

箱根における談話会の合宿は今回で2回目である。しかし前回の合宿報告がなされていないため、今回との比較はできなかった。

箱根のクモに関しては箱根神社(松本:1970)と畑宿(小林他:1975)が報告されている。ここではこの二報と合宿の成果を比較した。それによると箱根より初めて確認された種が58種で、既知種で今回確認されなかった種は49種であることがわかった。これで現在箱根のクモとしては28科185種が確認されたことになる。参考までに今回確認されなかった種の和名を列記する(学名はそれぞれの文献を参照して下さい)。

ヤマトガケジグモ・オウギグモ・ミヤグモ・アケボノユウレイグモ・ツクネグモ・スネグロオチバヒメグモ・ヒロハヒメグモ・コホラヒメグモ・フジヤミサラグモ・デーニツツサラグモ・ツメケシグモ・ユノハマサラグモ・コゲチャオニグモ・ニシキオニグモ・サガオニグモ・ギンメッキゴミグモ・ギンナガゴミグモ・ヤマゴミグモ・コオニグモモドキ・タニマノドヨウグモ・カチドキナミハグモ・ホラズミヤチグモ・ホラコタナグモ・ウスイロヤチグモ・ヤチグモ・フタバヤチグモ・アズマヤチグモ・ハタケグモ・スジアカハシリグモ・アズマキンダグモ・キクズキコモリグモ・ウヅキコモリグモ・キバラコモリグモ・ヒノマルコモリグモ・ハナグモ・アズチグモ・シナカニグモ・キンイロエビグモ・アダンソンハエトリ・ヤハズハエトリ・オスクロハエトリ・ヨダンハエトリ・アシナガコマチグモ・ヤサコマチグモ・ヤハズフクログモ・トビイロフクログモ・ホシジロトンビグモ・タイリクケムリグモ。

なお、この報告を終るにあたり、合宿所のお世話をしていただいた小澤實樹氏、合宿の資料を作成し便宜を計っていただいた池田博明氏に、参加者を代表してお礼申し上げます。

- ・ Locality Code : 塔ノ沢 [C 3905 - 3513], 大平台 [C 3904 - 3513], 宮ノ下 [C 3903 - 3514], お玉ヶ池 [C 3902 - 3512], 箱根神社 [C 3901 - 3512]
- ・ 合宿所: 箱根町大平台 ほそかわ旅館

参考文献

Matsumoto Seiji, 1970. Spiders around Ashinoko lake and of Niijima, Manazuru peninsula, Kanagawa Prefecture. KISHIDAIA 16-17:

1-3

小林久俊・石山鉄幸・権田重雄, 1975, 箱根畑宿付近の真正蜘蛛類, KISHIDAIA 39:42-48

東京蜘蛛談話会 昭和59年度(1984年)合宿報告

内浦山県民の森の真正蜘蛛類

浅 間 茂

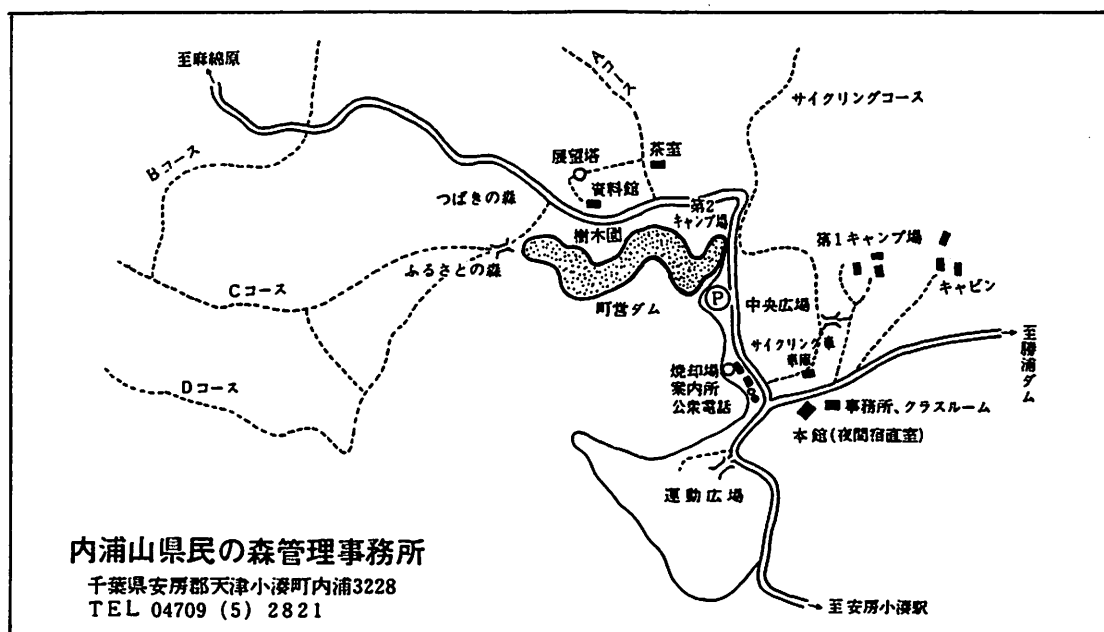
内浦山県民の森は、外房線安房小湊駅北方約5kmに位置しており、千葉県最多雨地帯で年間降水量2200mm、平均気温15℃の温暖湿潤な地域である。植物相は典型的な暖帯林でカンシ林が優占しており、自然豊かな所である。海拔50mから250mくらいで、約200mの標高差しかないが、急斜面が多く、深く谷が入り込んだ複雑な地形からなっている。内浦山県民の森の真正クモに関する記録としては、浅間(1983)に“内浦山県民の森でのクモの冬越しのしかた”があり、採集記録としては浅間(1984)が90種を報告している。

東京蜘蛛談話会では1984年7月28日から30日まで、恒例の夏季合宿を行ない22科115種のクモを採集できたので全種のリストを発表する。

採集参加者(敬称略)

28日～29日 河又和夫・寺田一哉・松浦祐司

28日～30日 浅間茂・稲葉茂代・梅林力・梅林登・大野智子・小澤寛樹・熊田憲一・小池牧子・
斉藤慎一郎・佐藤幸夫・佐藤幸子・鶴田明子・蓮沼克己・牧孝匡



〈目 録〉

記号説明・M (雄成体), F (雌成体), m (雄幼体), f (雌幼体), y (雌雄不明幼体),
e (卵のう), S (亜成体).

1. Ctenizidae		
1. <i>Latouchia typica</i>	キンノウエトタテグモ	F e
2. <i>Ummidia flagaria</i>	キノボリトタテグモ	F
2. Atypidae		
3. <i>Atypus karschi</i>	ジ グ モ	y
3. Uloboridae		
4. <i>Hyptiotes affinis</i>	オウギグモ	y
5. <i>Miagrammopes orientalis</i>	マネキグモ	y
6. <i>Uloborus sinensis</i>	トウキョウウズグモ	F
7. <i>U. sybotides</i>	カタハリウズグモ	F
8. <i>U. varians</i>	ウズグモ	M F
4. Segestriidae		
9. <i>Ariadna lateralis</i>	ミヤグモ	F
5. Pholcidae		
10. <i>Pholcus crypticolens</i>	ユウレイグモ	F
6. Theridiidae		
11. <i>Achaearanea angulithorax</i>	ツリガネヒメグモ	F e
12. <i>A. culicivora</i>	ニセンヒメグモ	M F e
13. <i>A. japonica</i>	ヒメグモ	F y e
14. <i>A. tepidariorum</i>	オオヒメグモ	F e
15. <i>Anelosimus crassipes</i>	アシブトヒメグモ	F y e
16. <i>Argyroides cylindratus</i>	トビジロイソウロウグモ	F
17. <i>A. cylindrogaster</i>	オナガグモ	M F y e
18. <i>A. fissifrons</i>	チリイソウロウグモ	M F
19. <i>A. fur</i>	フタオイソウロウグモ	F
20. <i>A. saganus</i>	ヤリグモ	M F y e
21. <i>Chrysso punctifera</i>	ホシミドリヒメグモ	y
22. <i>C. venusta</i>	コガネヒメグモ	F
23. <i>Dipoena castrata</i>	ボカシミジングモ	M
24. <i>D. flavomarginata</i>	キベリミジングモ	y
25. <i>D. mustelina</i>	カニミジングモ	y
26. <i>D. mutilata</i>	コアカクロミジングモ	M

27. <i>D. punctisparsa</i>	シモフリミジノグモ	M
28. <i>Episinus affinis</i>	ヒシガタグモ	F y
29. <i>E. nubilus</i>	ムラクモヒシガタグモ	y
30. <i>Phoroncidia pilula</i>	ツクネグモ	y
31. <i>Steatoda cavernicola</i>	ハンゲツオスナキグモ	F e
32. <i>Theridion sterninotatum</i>	ムナボシヒメグモ	M F
7. Linyphiidae		
33. <i>Linyphia longipedella</i>	アシナガサラグモ	F
34. <i>L. nigripectoris</i>	ムネグロサラグモ	y
35. <i>L. oidedicata</i>	ヘリジロサラグモ	y
36. <i>Meioneta nigra</i>	クロケングモ	M F
8. Mimetidae		
37. <i>Ero japonica</i>	センショウグモ	S y
38. <i>Mimetus japonicus</i>	ハラビロセンショウグモ	m
9. Anapidae		
39. <i>Conoculus lyugadinus</i>	ヨリメグモ	y
10. Araneidae		
40. <i>Acusilas coccineus</i>	ハツリグモ	F y
41. <i>Araneus ventricosus</i>	オニグモ	F
42. <i>A. punctigera</i>	コゲチャオニグモ	y
43. <i>A. abscissus</i>	キザハシオニグモ	y
44. <i>A. pseudocentrodus</i>	トガリオニグモ	y
45. <i>A. ejusmodi</i>	ヌサオニグモ	M F
46. <i>A. mitificus</i>	ビジョオニグモ	y
47. <i>A. pentagrammicus</i>	アオオニグモ	M y
48. <i>A. semilunaris</i>	マルヅメオニグモ	y
49. <i>A. viperifer</i>	カラオニグモ	y
50. <i>A. viridiventris</i>	ハラビロミドリオニグモ	y
51. <i>Araniella</i> sp.	ムツボシオニグモ	y
52. <i>Neoscona mellottei</i>	ワキグロサツマノミダマン	F S
53. <i>N. scylloides</i>	サツマノミダマン	M F
54. <i>N. scylla</i>	ヤマシロオニグモ	M F y
55. <i>Zilla astridae</i>	サガオニグモ	y
56. <i>Argiope amoena</i>	コガネグモ	F
57. <i>A. bruennichii</i>	ナガコガネグモ	y
58. <i>A. minuta</i>	コガタコガネグモ	y

59.	<i>Chorizopes nipponicus</i>	ヤマトカナエグモ	Fe
60.	<i>Cyclosa octotuberculata</i>	ゴミグモ	Fe
61.	<i>C. sedeculata</i>	ヨツデゴミグモ	y
62.	<i>Cyrtarachne bufo</i>	トリノフンダマン	y
63.	<i>C. inaequalis</i>	オオトリノフンダマン	y
64.	<i>C. yunoharuensis</i>	アカイロトリノフンダマン	y
65.	<i>Meta reticuloides</i>	ヤマジドヨウグモ	y
66.	<i>Metleucauge kompirensis</i>	タニマノドヨウグモ	Fy
67.	<i>Nephila clavata</i>	ジョロウグモ	y
11. Theridiosomatidae			
68.	<i>Ogulnius pullus</i>	ヤマジグモ	F
69.	<i>Theridiosoma epeiroides</i>	カラカラグモ	y
12. Tetragnathidae			
70.	<i>Leucauge magnifica</i>	オオシロカネグモ	MF
71.	<i>Tetragnatha lauta</i>	キヌアシナガグモ	y
72.	<i>T. praedonia</i>	アシナガグモ	Fy
73.	<i>T. squamata</i>	ウロコアシナガグモ	My
13. Agelenidae			
74.	<i>Agelena limbata</i>	クサグモ	S
75.	<i>A. opulenta</i>	コクサグモ	y
76.	<i>Coelotes corasides</i>	ヤマヤチグモ	y
77.	<i>C. exitialis</i>	クロヤチグモ	y
14. Pisauridae			
78.	<i>Dolomedes pallitarsis</i>	スジブトハシリグモ	Fy
79.	<i>D. raptor</i>	アオグロハシリグモ	y
80.	<i>D. insidious</i>	イオウイロハシリグモ	y
15. Lycosidae			
81.	<i>Pardosa astrigera</i>	ウヅキコモリグモ	M
82.	<i>P. laura</i>	ハリゲコモリグモ	M
16. Oxyopidae			
83.	<i>Oxyopes sertatus</i>	ササグモ	MF
17. Thomisidae			
84.	<i>Misumenops japonicus</i>	コハナグモ	y
85.	<i>M. tricuspidatus</i>	ハナグモ	Fey
86.	<i>Oxytate striatipes</i>	ワカバグモ	y
87.	<i>Pistius undulatus</i>	ガザミグモ	y

88. <i>Thomisus labefactus</i>	アズチグモ	y
89. <i>Tmarus piger</i>	トラフカニグモ	y
90. <i>Xysticus croceus</i>	ヤミイロカニグモ	F
91. <i>X. saganus</i>	オオヤミイロカニグモ	MF
18. Philodromidae		
92. <i>Philodromus subaureolus</i>	アサヒエビグモ	Fe
93. <i>Tibellus tenellus</i>	シャコグモ	Fy
19. Salticidae		
94. <i>Aelurillus festivus</i>	ヤマジハエトリ	y
95. <i>Carrhotus xanthogramma</i>	ネコハエトリ	Fy
96. <i>Evarcha albaria</i>	マミジロハエトリ	MF
97. <i>E. crassipes</i>	アジプトハエトリ	M
98. <i>Harmochirus brachiatus</i>	ウデブトハエトリ	y
99. <i>Hasarius doenitzi</i>	デーニッツハエトリ	y
100. <i>Jotus abnormis</i>	チャイロアサヒハエトリ	MF
101. <i>Marpissa elongata</i>	ヤハズハエトリ	MF
102. <i>Menemerus confusus</i>	シラヒゲハエトリ	Fy
103. <i>Myrmarachne innermichelis</i>	ヤサアリグモ	F
104. <i>M. japonica</i>	アリグモ	Fe
105. <i>Pellenes ususudi</i>	ウススジハエトリ	y
106. <i>Rhene atrata</i>	カラスハエトリ	y
107. <i>Silerella vittata</i>	アオオビハエトリ	M
108. <i>Yaginumanis sexdentatus</i>	ムツシハエトリ	M
20. Clubionidae		
109. <i>Chiracanthium eutittha</i>	アシナガコマチグモ	M
110. <i>C. japonicum</i>	カバキコマチグモ	Fy
111. <i>Clubiona japonicola</i>	ハマキフクログモ	MF
112. <i>C. vigil</i>	ムナアカフクログモ	F
113. <i>Phrurolithus pennatus</i>	ヤバネウランマグモ	Fe
21. Heteropodidae		
114. <i>Heteropoda venatoria</i>	アシダカグモ	y
22. Gnaphosidae		
115. <i>Zelotes</i> sp.	エビチャケムリグモ	F

まとめ

○内浦山県民の森における談話会合宿の成果は115種であった。

- 千葉県南部においてはじめてキシノウエトタテグモが発見された。（千葉県では松戸市の記録のみ）
- キヌアシナグモを採集確認することができた。

内浦山県民の森に関する文献

- 浅間茂，1983. クモの冬越しのしかた. 千葉県立東葛飾高校生物部部誌特別号，房総， 9
 ——，1984. 内浦山県民の森のクモ. クモの会春の合宿配布資料.
- 佐藤幸生・日下部光代，1984. 内浦山県民の森. トタテズグモ， 3（20）：2－3
- 佐藤幸子，1984. 観察会レポート，内浦山県民の森合宿. トタテズグモ， 3（22）：6－8
- 斉藤慎一郎，1985. 観察会レポート，内浦山県民の森. トタテズグモ， 3（24）：3－6

編集後記

今回は観察の投稿があり、たいへん嬉しかった。観察に関して勉強は大切だが、文献読みの不足はありません。よく見ることが基本で、そこから何が飛び出してくるか楽しみも大きいものです。これからもこのような投稿を期待します。

活動報告合宿の部が3回分クリアしました。まだ提出していない担当の方、投稿はお早目に。

前号の正誤表を次に記します。間違えが多く投稿された方には御迷惑をおかけしました。素人なのだからこのくらいは御愛嬌、と言ってくれる人もいて、少々気を楽にさせていただいています。

このほかにも誤りがありましたら編集局までお知らせ下さい。

頁	行	誤	正
表紙	(年号)	1987	1986
9	9	学研	東海大学出版会
17	4	m (雄成体)	m (雄幼体)
—	5	幼体雌雄不明	雌雄不明幼体
18	7	ヒロハメグモ	ヒロハヒメグモ
22	—13	高田	高橋
23	—4	Ey	Fy
—	—2	Ey	Fy
24	14	ムナボシヒメグモ	ムナボシヒメグモ
—	19	<i>parvus</i>	<i>pruvus</i>
25	—13	Fy	Ey
26	—9	ジャバラハエトリ	ジャバラハエトリ
27	15	<i>japonicus</i>	<i>japonica</i>

KISHIDAIA №55

1987年5月14日印刷 編集者 熊田 憲一

1987年5月15日発行 発行者 萱嶋 泉

発行者

東京蜘蛛談話会

〒191 東京都日野市多摩平7-15-9 萱嶋 泉 方

印刷所

イチカワ印刷所

〒357 埼玉県飯能市新町24-7

K I S H I D A I A

Bulletin of Tokyo Spider Study Group

No. 55 MAY 1987

—— 目 次 ——

板倉泰弘： アズマキシダグモの婚姻贈呈	1
高橋祐子： アンブトヒメグモの生態	3
谷川明男・堀由起子： クモ3種の新産地の報告 —— シロタマヒメグモ・ニワオニグモ・アカスジコマチグモ ——	7
熊田憲一： 談話会活動報告に使用したクモ性別および輪期略号について	9

~~~~~ 東京蜘蛛談話会活動報告 ~~~~~

熊田憲一・加藤輝代子： 昭和57年度合宿報告 伊豆半島天城湯ヶ島町市山のクモ	10
熊田憲一・加藤輝代子： 昭和58年度合宿報告 箱根合宿のクモ	17
浅間 茂： 昭和59年度合宿報告 内浦山県民の森の真正蜘蛛類	25